

## ◆医師の異動（8月）

医師の異動はありません

## ◆地域医療従事者研修のご案内

### ■第290回 開放型病床生涯教育研修会

日時：平成29年9月7日（木）17：30～19：00

会場：市立長浜病院 講堂

テーマ：「慢性呼吸器疾患～吸入療法について～」

講師：市立長浜病院

呼吸器内科責任部長 野口 哲男

問合先：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■がん看護研修(肺がん)

日時：平成29年8月19日（土）8：45～12：15

会場：市立長浜病院 講堂

講師：市立長浜病院 呼吸器外科責任部長兼

がん対策推進室長 田久保 康隆

がん看護専門看護師 山岸 美紀

慢性呼吸器疾患看護認定看護師 山口 清香

がん放射線療法看護認定看護師 入江 桃好

問合先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）

## ◆眼科入院患者さんの食器が新しくなりました

当院では7月より眼科入院患者様を対象に新しい食器を導入いたしました。著しい視機能低下（ロービジョン）のある患者さんに限らず、白内障などでの視力低下がある場合には、白色の飯椀では白いご飯が見えづらことがあります。

このことから以前より「食材や食器が見えづらくて食べにくい」とのご意見がありました。このような患者さんには、食材や食器の配置を見やすくするため、それぞれのコントラストを明瞭にする必要があります。このため、栄養科と協議して眼科入院の患者さんには、「滑りにくい」、「持ちやすい」といった食べやすさにも配慮した写真のような色付きの食器で食事を提供させていただくこととなりました。今後も患者さんのご意見を大切にして、療養環境にも配慮した視機能管理に努めてまいります。



## ◆病診連携と機能分化の推進 — 第1回地域医療連携委員会 —

湖北地域における医療の確保に必要な支援について、地域の先生方の代表者や関係行政機関と審議することを目的に、7月6日に第1回市立長浜病院地域医療連携委員会を開催しました。会議では、当院から地域医療支援病院の承認に向けての取組状況等の説明後、委員の先生方から、地域において当院が果たしてきた役割への評価と、今後に向けた期待など、大変貴重なご意見をいただきました。今後も委員会を通じて、先生方や行政関係者と地域完結型医療の推進についての議論を深めます。

委員の構成：湖北医師会・湖北歯科医師会・湖北薬剤師会の代表者、湖北健康福祉事務所長、長浜市・米原市部長、湖北病院長、当院院長

## ◀◀◀ 編集後記 ▶▶▶

空梅雨かと思えばゲリラ豪雨。7月から続く猛暑に体調は整わない毎日です。この夏を乗りきるため、今年は梅ジュース作りに挑戦しました。梅の力をかりて、暑い8月を元気に過ごしたいと思っています。



Pink-Bu

救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院

# 市立長浜病院 地域医療連携だより

## 理念

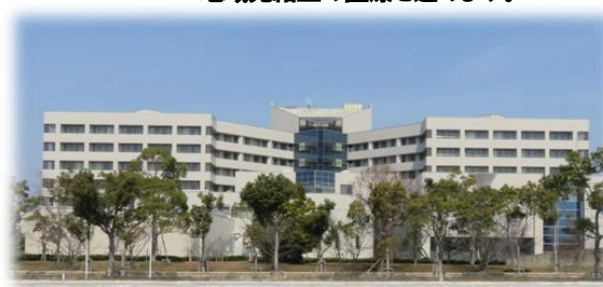
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

平成29年8月1日号 No.152

市立長浜病院ホームページ

<http://www.nagahama-hp.jp/>

市立長浜病院 検索



市立長浜病院患者総合支援センター 地域医療連携室

〒526-8580 長浜市大成亥町 313 番地

TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。8月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ◆安心いただける泌尿器科医療の提供を目指して

泌尿器科部長 横川 竜生



日頃から病診連携で大変お世話になっております皆様へ感謝申し上げます。お陰様で当科を受診される初診の患者数も増加しており、これに伴い当科では2016年度より泌尿器科スタッフの増員があり常勤医4名体制となりました。湖北地域では最も充実した体制となっております。

当科ではあらゆる泌尿器疾患に対応しており、手術症例に関しては腎および副腎疾患に対する腹腔鏡下手術、尿路結石症に対する経尿道的手術を積極的に取り入れております。特に尿路結石症においては滋賀県内で1、2を競う症例数を維持しております。中でも腎結石に対する軟性尿管鏡とホルミウムレーザーを使用した経尿道的碎石術(f-TUL)は症例数も多く治療成績も大変良好であり、このことも関係して当科での手術映像が大手医療機器メーカーの全国プロモーション映像に採用されることとなりました。

上記治療法以外にも体外衝撃波碎石術(ESWL)、経皮的腎碎石術(PNL)といった治療法もありますが、当科では全ての碎石機器を備えており、手技的難度が高いとされるPNLに関しても最新の超音波碎石装置を導入することで効率的に治療可能となりました。

悪性腫瘍に関しては泌尿器科領域では前立腺癌、腎癌、膀胱癌が主体となります。低侵襲手術の観点から腎癌では腹腔鏡下手術、前立腺癌では開放手術ですが8cmの小切開で行っており、これに伴い入院期間も腎癌で約7日、前立腺癌で約11日と大幅に短縮出来ております。

さらに今後は当院でも手術支援ロボット da Vinci の導入が検討されております。

泌尿器疾患の多くは頻尿、排尿困難といった排尿症状や血尿などから発見されますが、健診での尿潜血などで偶発的に発見される機会も増加しています。

当科ではスタッフ増員により、現在では病診連携でのご紹介はお断りすることなく迅速に対応させていただくことが可能となりましたので、救急対応も含めて治療が必要な患者さんがおられましたらこれまで以上にご紹介いただけますと幸いです。

治療を優先すべき患者さんが増加している都合上、病状が安定している患者さんはかかりつけの先生方に処方の方の継続などをお願いさせていただく機会も増えておりますが、症状増悪時にはすぐに対応させていただきますのでご高配いただけますと幸いです。

これまで以上に湖北地域の泌尿器科診療の充実を図って参りますので今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

## ◆新任医師のご紹介

### 呼吸器外科 藤本 遼

7月から当院呼吸器外科でお世話になっております藤本遼と申します。神戸市立西神戸医療センターから赴任してきました。

滋賀県は初めてですが、通勤中の琵琶湖の穏やかな景色にいつも癒やされております。

湖北地域の医療に貢献できるように努めていきたいと思っております。呼吸器疾患（特に外科系）でお困りなことがありましたら、気軽にご相談いただければ幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## ◆放射線機器のご紹介

### 泌尿器・産婦人科専用X線TV装置更新について

平成29年3月、装置の老朽化に伴い、泌尿器・産婦人科専用のX線TV装置を更新しました。大型フラットディテクタを搭載し、画像処理能力の向上により画質の向上と被ばく低減が可能となりました。

また、内視鏡などの外部入力映像の切り替えが可能で、専用装置として使いやすさを追求し、術者、患者さんに優しい装置となっております。



泌尿器・産婦人科専用X線TV装置

### 乳房撮影装置について

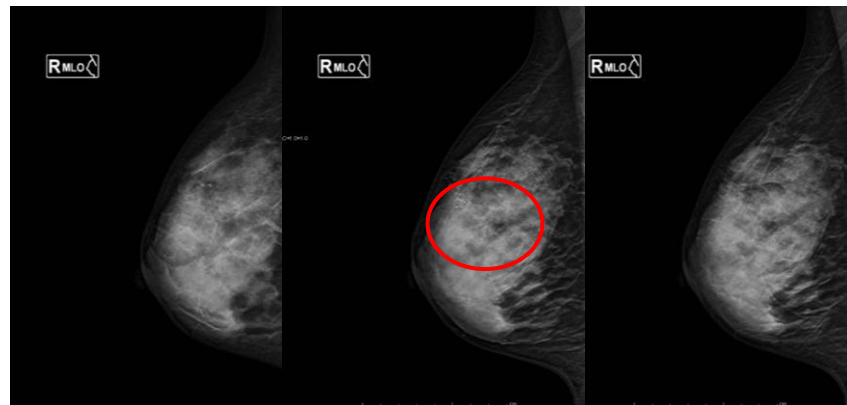
平成28年3月に、乳房撮影装置を更新しています。この装置では、乳房内部構造をより鮮明に描出することができる最新機能である“**トモシンセシス撮影**”が可能となりました。“**トモシンセシス撮影**”とは、エックス線管球を移動しながら連続的にエックス線を照射し、異なる照射角度から複数の画像を撮影して3D データを取得し断層画像として再構成します。

通常のマンモグラフィでは、乳線構造の重なりで発見が難しい病変でも、**トモシンセシス撮影**では乳線と重なった病変との分離が可能となり、鮮明に病変を描出することができます。当院では、「マンモグラフィ検診施設画像認定」中央委員会の基準を満たした「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得しています。

ご不明な点がありましたら、お気軽に担当技師にお尋ねください。



富士フィルム製 AMULET Innovality



TOMO (断層) 画像

## ◆湖北がんフォーラム2017を開催しました

湖北がんフォーラム2017を、7月23日（日）に長浜文化芸術会館で開催しました。本フォーラムは、がんに関する様々な情報提供と啓発をさせていただくことを目的に、当院が2008年から毎年開催しており、本年は、長浜赤十字病院にご協力をいただき合同で開催しました。

滋賀県のがん統計によると、「がん」にかかる人は年々増えていますが、「がん」で亡くなる人はここ数年増えておらず、5年生存率は伸びてきていることから、入院だけの治療ではなく在宅等での治療が必要な時代となっています。このため、今年のがんフォーラムは、「みんなで支える湖北の医療」をテーマに開催しました。



第1部のシンポジウムでは、湖北地域で現在活躍されておられる先生方と患者家族から、いま、病院と地域で実際に行われている取り組みをご発表いただきました。

第2部は、「野の花診療所」院長の徳永進先生を鳥取からお迎えし、「生活の中の死」と題してご講演をいただきました。

幕間には当院ボランティアの古家後裕子さんによるピアノ演奏や、滋賀県がん患者団体連絡協議会菊井会長に

「がん患者サロン」のご紹介を行いました。

参加者は399名と昨年を150名以上も上回り、開催後アンケートでは、「湖北地域の医療連携が良いことがわかり、安心して治療や相談が受けられます」「徳永先生のお話が心にしみ」「在宅看取りの大切さを学ぶことができた」などの意見をいただきました。

閉会では、長浜赤十字病院長の濱上先生から、湖北地域の急性期医療の確保にも病診・病病連携の重要性が高まっていることを参加者に説明していただき、大変有意義なフォーラムとなりました。



橋本先生には、ICTを利用した多職種連携について発表いただきました

## ◆緩和ケア講演会を開催しました

7月6日に当院講堂に於いて、地域医療従事者研修・平成29年度第1回緩和ケア講演会を開催しました。

第1部では、市立大津市民病院 臨床心理士 笹田侑子先生から、「がん患者さん、ご家族の意志決定支援～コミュニケーションの実際～」と題し、今後の治療や療養について、患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスである、「アドバンス・ケア・プランニング」についてご講演いただきました。

第2部は、事例を用いて意志決定支援についてのグループワークを行い、地域の薬剤師や介護支援専門員なども参加していただき、多職種間での活発な意見交換を行うことができました。

講演会後のアンケートでは、「聞き方にも色々あること、患者と家族の思いを確認し、話し合うことの大切さを学んだ」「本人からの意見をうまく聞き出すコツについて勉強になった」「具体的な支援、コミュニケーションの方法がイメージできました」等の意見があり、学びの深い研修会となりました。

10月5日（木）には、事例を変更して第2回緩和ケア講演会を開催します。

多数の方のご参加をお待ちしております。



## ◆がん教育について考えるシンポジウムが開催されました

滋賀県のがん教育について考えるシンポジウムが7月11日、大津市のピアザ淡海で開催（主催：滋賀県教育委員会）され、当院の伏木雅人医師（がん対策推進室管理監）がシンポジストとして登壇しました。県では平成27年度から小中学校でのがん教育を推進しており、伏木医師は県内で先駆的に出前授業を実施したことや、生徒との双方向性の授業への工夫などを話されました。また湖南市保健師からは、がん予防や検診の重要性について、がん患者団体代表者からは高島市でのがん教育について報告されました。シンポジウムには、県内学校の養護教諭や市町保健師、病院関係者ら250人が参加しました。

